

日本下水道新聞(平成11年7月6日)

主張

日本上下水道設計(株)

水谷 潤太郎



私が五月十七日付「下水道新聞」でデイスポーターに対する意見を述べてから、神林氏および稲場氏の意見が同新聞に掲載されている。両者の意見は教えられるところが多いが、しかしなお検討するところが残っていると思われる。

II デイスポーター問題を考える II

廃棄物中の生ゴミ混入対策

私は、神林氏および稲場氏の松尾氏の見解に対する批判には、概ね同意するものである。つまり「生ごみも各家で分離するように努力し、分離した生ごみは各

人がいるのは市民ネットワークの手でリサイクルするの、少なくとも暗々裏に前提と

「がいいだろう」という見解しているものであるが、これに概ね同意する。市民の手にはちよつと無理な仮定ではないかと思う。

「えつつ、しかも廃棄物中の生ごみ混入の問題を解決するためには、結局、以下の行政サイドに必要とされるのは、以上の方策を受け入れる土台造りであろう。」

「たリサイクル活動に参加することが困難な者もいると思われ。こうした者を放置して、それ以外の覚醒した者だけでリサイクルをすすめばいいではないか」というのは、結果としては廃棄物中の生ごみ混入問題の解決を難しくすることにつながる。

「生ごみの減量化に向けた各種の施策を行う。・ごみの収集回数を減らし、市民に生ごみ対策の必要性を実感してもらう。・生ごみの市民ネットワークによる分離収集を促進する。リサイクル先はコンポストに限らず、豚などの飼料、魚の餌など多様であろう。」

「しかしデイスポーターについては禁止しない、これは何も悪いものではないのである。・そして市民に、食料の大切さや循環型社会について環境教育を行う。」